

徳島県病院薬剤師奨学金返還支援制度・研修プログラム作成指針

1 目的

この指針は、徳島県病院薬剤師奨学金返還支援事業費補助金の対象となる薬剤師の能力の開発及び向上を図ることを目的に、対象病院が作成する研修プログラムにより、円滑に研修が実施できるよう、研修の実施方法等を示すものである。

対象病院においては、本指針に基づき研修プログラムを作成し、「地域医療を支える薬剤師研修プログラム」(徳島大学作成)、「薬剤師臨床研修ガイドライン」(厚生労働省作成)を参考に、支援対象者である薬剤師に対し、研修を実施すること。

2 研修期間

研修期間は原則1年間とするが、施設の状況、研修者の経験やスキル等に応じて、短縮・延長を含め調整可能とする。

3 研修体制

次のような体制にすることが望ましい。

なお、施設の実情に合わせて、研修責任者は指導薬剤師を兼任することが可能である。

- 研修責任者

担当者：薬剤部長または教育責任者

役割：研修体制全体の管理

- 指導薬剤師

担当者：指導的役割を担う実務を担当する薬剤師

役割：研修記録の管理、研修スケジュールの管理、外部連携を担当

4 研修方法

次のような方法で、施設の実情に合わせて実施する。

- On-the-Job Training (OJT：実務を通じた指導)
- ローテーション研修(調剤室、病棟、DI 室 等)
- 症例検討・ケーススタディ
- ラウンド・カンファレンス参加
- 研修会・講演会への参加、学会参加
- 共同研修(自施設で実施困難な項目は他施設と連携)

5 研修項目

研修項目は次のとおりとする。選択項目については、施設の状況、研修者の経験やスキル等に合わせて、実施の可否を判断する。

<必須項目>

研修項目	主な内容
調剤業務	処方箋鑑査、疑義照会、調剤、服薬指導、相互作用の確認
医薬品管理	在庫管理、発注・納品、廃棄、医薬品の保管
医薬品情報	医薬品情報の収集方法、他職種への情報提供、医薬品変更対応、薬価制度の基礎理解（高額薬剤の適正管理を含む）、イエローレターやブルーレター発出時の対応
医療安全	インシデント報告、ヒヤリハット事例学習、インシデント事例分析、医療安全に関連する会議への参加、医療安全ラウンドへの参加
チーム医療	NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等、多職種から構成されるカンファレンスあるいはラウンドへの参加

<選択項目>

研修項目	主な内容
病棟業務	入院患者あるいは退院患者への服薬指導、患者の状態に応じた処方提案、持参薬確認、回診・カンファレンス参加、高齢者・小児患者の薬剤調整や処方提案、ポリファーマシー解消に向けた取り組み・処方提案
無菌調製	抗がん剤調製、高カロリー輸液の調製
感染制御	ICT・AST 業務ラウンド、カンファレンス参加、抗菌薬 TDM の必要性の理解
地域連携	薬剤管理サマリー作成
領域別薬物療法	がん：レジメン管理、副作用モニタリング、入院・外来患者への服薬指導、薬剤師外来の見学 精神：向精神薬の服薬支援、せん妄リスク薬の把握、副作用評価 災害医療：災害時の薬剤師の役割理解、災害時に必要な薬剤のリストについて理解する

6 研修評価

指導薬剤師は、次のような方法により、研修の評価を行うこと。

- 研修実施記録
- 研修者の自己評価
- 指導薬剤師との面談

7 修了認定

前項の評価を基に、必須項目、選択項目の達成を確認し、研修責任者が修了認定する。

8 記録の保管

指導薬剤師が記録を保管（電子・紙媒体いずれも可）し、研修終了後に施設内で報告・共有を図ること。